



私の なんとか しなきゃ!

Vol. 52

PROFILE

1993年神奈川県出身。曾祖父は東京大学名誉教授で応用化学者の高松豊吉。中学・高校時代に読売新聞子ども記者団として活躍。第14代高校生平和大使として国際連合軍縮会議などに出席。現在、慶應義塾大学在学中。2013年「ワラチャン！〜U-20お笑い日本一決定戦〜」優勝。「なんとかしなきゃ！プロジェクト」メンバー。

小学4年生の時にアルピニストの野口健さんの環境学校に参加して、富士山周辺の自然の美しさに感動しました。でも次の日、野口さんが「ごみ拾いに行こう」と言うのです。少し歩くとバスやトラック、注射針などの医療器具が放置されていて…。ショックでした。「見て見ぬふりをする大人が多い。だから、君たち子どもが伝えてほしい」と言われて、学校で壁新聞を作ったりしたのですが、あまり読んでもらえませんでした。

無関心な人を引き付けるにはどうしたらいいんだろう。ずっとそう考えていて、出会ったのがお笑いでした。中学の時に所属していたお笑いクラブの顧問が英語の先生で、校内の英語スピーチコンテストの余興として漫才をやることになったんです。すると、みんなスピーチは全く聞かないのに、私のネタになるとおなかを抱えて笑ってくれて。お笑いの力を実感しました。そのうち、「お笑いを通じて社会問題を伝える」が、私の夢になりました。

大学に入ってお笑い芸人になって、昨年ついにその夢の一步を踏み出すチャンス

お笑いで社会問題を伝えたい

お笑い芸人 **たかまつ なな**

TAKAMATSU Nana



が訪れました。日本の国際協力を紹介するテレビ番組で、バングラデシュを取材することになったのです。いわゆる開発途上国に行くのは初めてで、不安と期待を抱えながら現地に飛びました。

最初に訪問したのが、青年海外協力隊員の方の活動です。感染症の予防のための啓発活動をされていたのですが、いつも笑顔を決やさず、現地の人にも愛されているのが目に見えて分かりました。でも別の病院に行った時に、現地のスタッフを真剣に怒ったりもして。ちゃんと考えて薬を出さないと、きちんとした効果が出ないよと。信頼関係が成り立っているからこそ、言えることなのだと胸を打たれました。

児童労働をなくそうと活動している日本のNGOの取材では、現地の子どもたちに会うことができました。学校に行けず、家のお手伝いに懸命に取り組んでいる子がたくさんいる。知識では知っていたけれど、初めてそれが現実なんだと実感しました。今ここで私ができることはなんだろうと考えて、ベンガル語を少し覚えて手品を披露しました。私のネタでみんなの笑顔を

見ることができて、とてもうれしかったです。

帰国後、その番組の放送がちょうど大学の授業中だったので、ゼミの仲間と一緒に見ることができました。終わった後は、みんなできていることを考えたりして、とても有意義な時間でした。教職の授業では、模擬授業の素材にも使って大好評でした。やっぱり何をするにも、自分の目で見て触れて感じたことを伝えるのが、一番良いのだと実感しています。

今回の訪問について、お笑いを通じてもっとたくさんの方に発信できるよう、ネタを考えているところです。もっといろいろな国に足を運び、「楽しく分かりやすく」社会問題を伝えることを目指して、勉強していきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ！プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索